安心・安全・新鮮なうずら卵を全国へ

東三河のイノベーション企業

トップに聞く ▽11

豊橋養鶉（ようじゅん）農業協同組合 幡野喜一代表理事

日本で唯一のうずら専門農協

リスク分散経営で安定供給

全国シェアの約7割を占める愛知県のうずら卵。主要産地・豊橋から、安心・安全で健康なうずら卵を全国に出荷している、豊橋養鶉農業協同組合（豊橋市西幸町、幡野喜一代表理事）。日本で唯一のうずら専門農協で、農場分散経営など5つを柱に、消費者への安定供給を目指している。衛生管理の強化をと、受入棟や貯卵室を新設し、洗浄ラインなど一新した新GPセンターもこのほど完成。先月、第8代組合長に就任した幡野代表理事に、「豊橋うずら」のブランド化、PR・拡販への取り組みなど聞いてみた。（聞き手＝編集局次長・杉浦文夫）

「豊橋うずら®」のブランド確立

――GPセンターイプロモーションの一環として東京などでの展示・即売会の機会をつくり、愛知県も大村知事が名刺に、うずらのシールを張ってPRをと、後押ししてくれますので、私も全国一のうずら産業の発展に向けて陣頭に立ち、販路拡大、消費拡大に努めるつもりです。

――HP（ホームページ）も充実させていくつもりです。包装も現在、10卵パック詰めが主流ですが、納豆とのセット販売用など1個包装も増えはじめています。

――確かに、納豆と比べ、殻を割るのが難しいのがネックですが、（ソバ屋に置いてある）うずら割器「プッチ」の家庭普及や、簡単な割り方の考案もしたい。

――専門農協としての役割をお願いします。

幡野　大きな柱は5つ。①農場分散経営②孵化場③堆肥センター④GPセンター⑤水煮加工場―で、消費者への安定供給を可能にしています。

「農場分散経営」は現在、組合員18人で、豊橋、新城、田原地区に農場が分散しており、うずら農協のGPに入荷しております。

2年前、弱毒タイプH7N6の高病原性鳥インフルエンザが発見された時も、対象農場以外から卵を受け入れ、GPを止めることなく出荷でき、うずら農協のリスク分散管理が見直されました。

新GPセンター完成

洗浄ライン など一新 受入棟や貯卵室新設

生卵は合いますが、納豆1パックに、ニワトリの卵1個では多すぎますからね。ザルソバのつゆなどにも、ウズラの卵の大きさがちょうど良い。コンビニ食品の利用など、生卵の需要を掘り起こせそうですね。

幡野　ええ。鶏卵に比べ、殻を割るのが難しいのがネックです

――そのためにはどんな取り組みを。

幡野　うずら生産日本一の「豊橋うずら」のブランドを確立し、うずら農協の製品は安全、安心を追求した良品質であることを、全国にアピールするつもりです。豊橋市がシティプルエンザが発見された時も、対象農場以外から卵を受け入れ、GPを止めることなく出荷でき、うずら農協のリスク分散管理が見直されました。

豊橋養鶉農業協同組合の事務所㊨。右はGPセンター＝豊橋市西幸町で

共同施設で農家の負担軽減

効率的な生産加工・衛生管理

また、それぞれの農家が、飼育環境にこだわり、健康的なうずらの体調管理を徹底し、πウオーター、イオンミネラル水、磁化活性水など、水にもこだわって飼育。ストレス無く、元気で病気知らずのウズラが、滋養強壮の卵を産むのです。

「孵化場」も健康なヒナをモットーに計画的な育すうに取り組み、「堆肥センター」は、高度熟成発酵処理で有機肥料を製造しています。高タンパク飼料を餌にしているうずらの肥料成分は作物にとって良く、卵殻入りで作物の養分吸収も良いため、国内トップクラスの高品質な有機肥料です。

「水煮加工場」も、需要の季節変動がある生卵と加工卵の調整で、需要に応じた供給が可能です。

こうした、共同施設による農家の負担軽減や、効率の良い生産加工・出荷体制で、消費者への安定供給を続けることが、うずら農協の最大の役割です。

今後は、「液卵」の量産化を目指し、新商品の開発にも取り組むつもりです。

――特産品の開発に期待します。ありがとうございました。

組合員の農場の鶉舎（写真は豊橋市内で）

農場で選別された卵が毎日入荷。奥が貯卵室

温度管理された貯卵室（天井はオゾン発生口）

検卵し、良い卵だけを洗浄ラインへ

紫外線による二次殺菌処理

自動パック詰め機と最終検査者のラベル張り

概　要

豊橋養鶉農業協同組合（豊橋うずら農協）
所在地：〒441―8113　豊橋市西幸町浜池131
電　話（0532）48―0113
ＦＡＸ（0532）48―0143
ＵＲＬ　ｈｔｔｐ；//ｕｚｕｒａ．ｏｒ．ｊｐ
役　員：代表理事・幡野喜一
常務理事・小林政弘
常勤理事・新美克幸
理事・幡野正二、松野欣一
監事・中村長司、福澤省悟
参事・岩瀬訓良
営業部長・木村政雄
生産部長・幡野真也

沿　革

1965　「豊橋養鶉農業協同組合」を設立。初代組合長に藤田暹氏。
組合員34人で生産と流通の合理化を目指す。
67　豊橋市東幸町に事務所、共同選卵場、倉庫、孵化場、廃鶉処理場を建設。
70　豊橋市西幸町に土地1980平方㍍取得。
組合員の育雛計画を推進。
71　食肉処理施設、大型冷凍庫、孵化場が完成。
76　高塚町に畜産環境整備事業の鶉糞共同処理施設完成。
5戸の養鶉農家を集め、35万羽収容の「うずら団地」完成。
77　全国農業協同組合とＮＨＫ主催の第6回日本農業賞で優秀賞受賞。
78　鶉糞肥料を家禽鶉糞肥料クエイルユーキとして県登録。
79　クエイルユーキ肥料の販売好調を受け、製品倉庫増築。
東幸町に新社屋完成し、選卵場、孵化場、倉庫が充実。
81　第2代組合長に立石昌司氏。
85　鶉生卵自動パック詰機の導入で作業能率を高める。
87　第3代組合長に宮下秋保氏。
加工設備1日30万卵自動化設備の導入。
88　ニューカッスルなどの病原菌に対し、市と保健所の協力で防疫対策。
91　事務所、集出荷場、孵化場など本社機能を西幸町に集約。
92　販売部門を独立し、株式会社を設立。
93　第4代組合長に加藤好男氏。
95　創立30周年記念式典。
業界初のミネラル洗浄紫外線殺菌洗浄ラインの完成。
96　うずら卵のブランド化と無投薬飼育農場がＮＨＫテレビで全国放映。
97　第5代組合長に渡辺昭男氏。
日量21㌧処理の鶉糞高度化堆肥生産施設完成。
新型自動パック機を市内業者と開発し、ＧＰセンターに導入。
99　第6代組合長に内田実氏。販売と製造の統合を目指した再建に着手。
2000　第7代組合長に幡野正二氏。
01　消費の多様化に対応の一個卵包装設備を導入。
日本テレビ「おもいっきりＴＶ」でうずらの栄養と健康の効果を放送。
堆肥場の造粒設備と袋詰め設備の完全自動化。
02　「滋養健卵」を商標登録。
03　肥料倉庫完成。端境期対応の2万袋がストック可能に。
07　肥料の半製品熟成倉庫完成。
09　国内で84年ぶりの弱毒タイプH7N6の高病原性鳥インフルエンザ発見、組合員1農場含む7農場160万羽殺処分。いずれも発症していない。
10　テレビＣＭで「豊橋うずら」をＰＲ。
地域貢献でｂｊリーグ浜松・東三河フェニックスのスポンサー活動を開始。
11　第8代組合長に幡野喜一氏。
新ＧＰセンター完成。受入棟、貯卵室の新築、洗浄ラインなどを一新。
「豊橋うずら」を商標登録。新イメージキャラクターで周知活動。

ここに着目

若いパワーでうずら産業発展を

先月、専務理事から代表理事に就任した幡野氏は38歳の若さ。今回、うずら農協を訪問する前に、幡野氏に豊橋市南大清水町の農場を案内してもらった。入場日時を記入し衛生服と衛生帽を着用。はいた長靴を2カ所で消毒洗浄して鶉舎へ。鳥インフルエンザなどの防疫・衛生管理の対策だ。

鶉舎内は餌・水・集卵・集糞作業が自動化され、手入れも行き届いている。元気印の鶉たちが動き回っている。「ニワトリと違って、顔を出しませんので、写真に写りにくいですかね」と、一羽を手にとってくれたが、やさしく扱う様子に、うずらへの愛情を感じた。

幡野氏と次に向かったのが西幸町の豊橋うずら農協。事務所前で出迎えてくれた岩瀬訓良参事も同じく38歳の若さ。新設の参事制度で先月、就任した。新美克幸工場長と一緒に、事務所隣接の新ＧＰセンターを案内してくれた。

「各農場で選別された卵は毎日、平トレーに載せ、直射日光を避けたトラックパネルバンで運ばれます」「ここが新設の貯卵室。空調・温度管理され、天井に見えるのが、オゾン殺菌の噴出口」など、歯切れ良く説明。

輸入品増加による価格低迷、飼料価格や燃料高騰など、うずら卵市場の課題は多いが、大量の卵が手際良く検卵選別され、殺菌、洗卵、乾燥とラインの上を小気味良く流れていく様子を見学し、品質・コストで戦える力があると強く感じた。若いパワーと知恵で販路拡大や消費拡大に全力を注いでほしい。

洗浄・殺菌後、包装工程に運ぶライン

岩瀬参事㊨と新美工場長

業者向けなどニーズに合わせた化粧箱に手詰め作業

出荷を待つばかりの、パック詰めの生卵

納豆、ソバつゆなどとセットも出来る、生卵〝一個包装〟

「たま5くん!!」（くん製）の包装にも新キャラクター使用